

12/23 沖端地区で「もちつき大会」  
地域とボランティアによる協働

市ボランティア連絡協議会は、地域の住民とボランティアの協働による第2回もちつき大会を、昨年12月23日、沖端町の白秋生家通りで開催しました。参加者は約50人。当日は、天気にも恵まれ、子どもたちは日ごろ体験する機会が少ない餅つきに挑戦。みんなで輪になり、声を掛け合いながら、和気あいあいと行われました。出来上がったもち焼餅やぜんざいに、また地域で採れた野菜などを持ち寄って作った豚汁をみんなで食べました。つきたての餅はとても柔らかく、自分でついた餅を味わうのは、また格別のようでした。

参加者は「昨年から参加しているが、もちつき大会はとても楽しい。もっとたくさんのお子にも、この体験をさせたかった」と話しました。

協働とは、市民と行政、地域と団体など、さまざまな主体が同じ目的を共有し、共に活動すること。協働のまちづくりは各地区で進められています。

【取材を終えて】協働が推進されると、環境や防災、介護、子育てなど地域の課題が解決され地域の活性化につながります。住民同士の交流が一層深まる事を期待します。

(取材：市民レポーター原田由美子)



声援を受けて、きねを持つ手に力が入る子どもたち



◀臼ときねでついた餅はもちりとした粘りが特徴

ガンバル 我ら  
地域おこし協力隊 No.42

大都市圏から地方へ人の流れを作り、将来の定住を目指すしながら、地方の活性化への貢献を目指すプログラム「地域おこし協力隊」。彼らの日々の活動を紹介します。  
【問】市商工・ブランド振興課 (☎77・8722)



立花宗茂と間千代のイメージキャラクターがパフォーマンス



宝くじ入れ神棚作り体験



会場にはたくさんの方が訪れ大盛況



デザインしたチラシ

暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続きますね。2月とえば、柳川ではさげもんめぐりが始まる季節。昨年は、期間中に市内のあちこちを巡りました。色がとても美しく染まりました。今年の開催も楽しみにしています。さて、これに負けず劣らずの大きなイベント「柳川フェア」が、新年早々の1月13、14日に東京・浅草の商業施設「まるごと」で開催されました。柳川の農業や漁業、産物、観光の各分野が一緒になり、チーム柳川で臨んだ一大イベントで、昨年に続き、2回目となります。今回は9つの事業者の皆さんが、特産品の販売や体験イベントを行った他、あまおうを使用したパフェづくり教室や生海苔料理の試食会、NHK大河ドラマ

の招致活動、ステージイベントなど、盛りだくさんの内容で大盛況の2日間となりました。この日を迎えるにあたり、私も昨年の秋ごろから、陰ながら準備に参加してきました。主にチラシのデザインや会場装飾の制作を担当。特にメインのチラシについては、柳川の「輪」が少しでも広がるようにとの想いを込め、円を中心に、柳川を象徴するものを配置しました。これが、当日の会場のにぎわいやこれから柳川を訪れる人たちのご縁に少しでもつながれば嬉しいです。当日は、記録係として館内を回らせていただきました。笑顔あふれる会場は、とても幸せな空間でした。はるばる東京まで来てくださった事業者の皆さん、お疲れさまでした。また来場された、たくさんのお客様や駆けつけてくださった柳川出身の皆さん、ありがとうございました。楽しい2日間、今年も良いスタートを切ることができました！本年も、どうぞよろしくお願いたします。



あやか 上田 恵佳 (32歳)

【プロフィール】東京都目黒区から移住。大学で環境・都市デザインを学び、まちづくり専門員として目黒区の活動を支援していた。平成28年5月から市地域おこし協力隊として市商工・ブランド振興課に所属

「柳川フェア」in東京・浅草で魅力をPR

川柳

今月の入選作品・課題  
「振る」「雑詠」

手のひらに乗せて情けの重さ知る

古賀幸子 (横山町)

麦の青さが日々濃くなる。ダイコンの首が早くと収穫をせがむ。これも一粒一粒の種からの贈りもの。大地と天の恵みがあればこそ生命の糧を頂くことができる。手のひらにのせる種と陽の光りと雨の粒。まさしく自然の情けの重さでもある。 流青

- 髪を切る再出発の万華鏡 阿津坂典代 (矢留本町)
- 成人式振り袖消えた初試験 大橋ミヨ子 (六合)
- 山よりも谷の人生振り返る 坂田信幸 (鷹ノ尾)
- 米韓の合同播さぶる北の国 内村美子 (七ツ家)
- 見てみないふりしては思いやり 佐田輝喜 (明野)
- 振り過ぎて願ひも運も崖つぷち 坂井幸利 (中島)
- 願ひ込め振る鈴の音を聞くや神 古賀麗子 (吉原)
- ほつとする税の振り込み終えた今 鶴岡定子 (茂庵町)
- さよならも久しぶりねも手を振って 吉開綾子 (筑紫町)
- 振り返る弾む学舎淡い恋 山田美代子 (下宮永町)
- 振り振られ昭和の見合い遥かなり 梅崎三和子 (田脇)
- 振り上げた拳に愛が見え隠れ 浦 哲之 (栄)
- 我が母校タクト振らるる詩歌の里 宮崎 武 (弥四郎町)
- 泣きそうなマラソン選手振り向かず 森 フチエ (弥四郎町)
- 春よ来い磨く一振り冬を裂く 津留和巴 (六合)
- 撫で佛かじかむ手添え願うなり 山口房子 (白鳥)
- 成人式振り袖者逃げました 園田夏海 (柳河小6年)
- バット振るその一ふりで決まる勝ち 木下実優 (柳河小6年)
- うでを振る新春走り箱根山 山田佳奈 (柳河小6年)

川柳を募集しています。選句者は梅崎流青さん。2月の課題は「住む」雑詠。入選作品は3月1日号に掲載します。

●応募方法 川柳と明記し、自作、未発表の作品(※1人3句以内)に、住所、氏名、電話番号を書いて、ハガキかファクスまたは直接、柳川庁舎企画課広報係(☎77・8425、FAX 74・5520)へ、2月15日(必着)までにお送りください。

あの虹の下に子の住む街がある

流青